



「21世紀のマーチ」の成り立ち

SGI（創価学会インタナショナル）の歌「21世紀のマーチ」は1983年（昭和58年）8月、北海道厚田村（現・石狩市厚田区）で開催された「第3回世界平和文化祭」の記念の集いの席上、発表された。

文化祭当日には、海外36か国2000人のメンバーを含む6万人の参加者が、発表になったばかりの「21世紀のマーチ」を大合唱。軽快なマーチのメロディーとともに歓喜の歌声が札幌・真駒内（まこまない）屋外競技場に響きわたった。

この文化祭へ向けて「SGIの歌」を作成することが発表されたのは前年の9月。年齢、国籍、プロ・アマを問わず、全世界の友から作品が募集された。

その結果、日本をはじめ、アメリカ、カナダ、フランス、ガーナ、オーストラリア、アルゼンチンなど5大陸の12か国から436点の作品が寄せられた。

この中から、83年（昭和58年）7月1日の最終審査でイギリスのSGIメンバーでプロの音楽家でもあるヒュー・バーンズさんが作詞・作曲した「21世紀のマーチ（原題=March Toward The 21st Century）」が最優秀作品に選ばれたのである。

文化祭の2日後に開催された「第4回SGI総会」の席上、記念表彰されたバーンズさんは、「私の音楽人生で最高の思い出になりました」と喜びを語り、81年（昭和56年）、フランス・トレットの欧州研修道場に池田SGI会長を迎えた時の感動のなかで作曲したものであるとの心境を語った。

発表と同時に、世界に広がるSGIの連帯の喜びとともに全国で広く歌われるようになった「21世紀のマーチ」。勇壮なメロディーのなかに、「平和の建設」「希望」「自由」、そして「21世紀の歴史を開拓しゆく心意気」が高らかに歌い上げられている。

「音楽は世界共通の言葉である。文化や民族の違いを超えて理解しあえる。そこには平和がある」（池田SGI会長）

「21世紀のマーチ」は、SGIの平和と善の連帯の発展に合わせて、今後も世界中で歌い継がれていくことであろう。

